

議事録

審議会等名	令和6年度第1回取手地方広域下水道組合事業運営審議会
開催日	令和6年7月10日(水)
開催場所	取手市小文間173番地 取手地方広域下水道組合 3階大会議室
出席者	出席委員 山田会長ほか10名 欠席委員 1名 事務局 穂鹿事務局長、中山次長、齊藤次長兼経営課長、坂木課長補佐、日野課長補佐、山田主幹
議題	・下水道使用料の経緯及び下水道使用料令和6年度予算の概要
議事概要	<p>1 開会 午前11時</p> <p>2 会長及び副会長選任</p> <p>3 会長及び副会長あいさつ 山田会長、小神野副会長</p> <p>4 議題</p> <p>事務局から下水道使用料の経緯及び下水道使用料令和6年度予算の概要について説明した。</p> <p>・質疑等</p> <p>質問 24.3%の料金改定率、かなり高かったと記憶しておりましたが、管理運営費に継続的な赤字が生じるとされる現状があり、審議委員としても望ましくない状況であると判断し、料金改定という英断に至っているものと思います。そのような中で市民からの問い合わせが47件程、そのうち料金が「高い」との声は全体の7割ほどとのことですが、件数の多少にかかわらず実際に「高い」と感じる方がいることも事実です。再度このような料金改定がある場合には未来志向で、節税を念頭に置きながら、いままでのスタンスを変えずにやっていければと考えております。最後に確認ですが、今回の改定率は24.3%でしたが、これは最終的に赤字にはならないとの認識でよろしいですね。</p> <p>回答 はい。その通りです。</p> <p>質問 今後も施設の老朽化等に伴い、今回と同様の料金改定をしなければならない事態が訪れた場合、単に値上げをするのではなく、汚泥事業を見直すなどし、汚水処理コストの152円/m<sup>3</sup>を軽減するための技術革新が必要だと思っております。また、下水道の完全普及を目指すならば、浄化槽使用者が残るなかで、難しい部分もあると思っておりますが、構成市の補助金で不足額を補うのが理想であると思っております。何より、近年の物価高をはじめとする社会情勢が、負担する側には重くのしかかっている</p>

	<p>る状況です。浄化槽を使っているほうが安価であると感じる方にとっては、下水道の完全普及の足止めになると思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>回答 構成市の補助金につきましては、率にすると 50%弱ですが、公費を入れることは処理場管理や雨水事業を行う観点からなくなることはないと考えております。また、使用料不足額については、本来なら下水道使用料で賄うべきところを近年は構成市の補助金で補っていましたが、このたびの料金改定により当面は安定した運営ができるものと思います。</p> <p>市民の皆様については、下水道使用料以外にも円安や様々な物価高騰があり、やむを得ない料金改定であると受け止めていただいた部分もあると思いますが、先ほどのお話にもあったとおり、当組合もこれまで以上の技術革新に取り組み、更なるコスト削減に努め、今ある料金体系を少しでも長く続けられるよう尽力いたしますので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。</p> <p>5 閉会 午後 3 時 4 0 分</p>
<p>そ の 他</p>	<p>傍聴人 0人</p>